明治のれんが、紅葉、石垣…連日にぎわい

愛岐トンネル 尽きない魅力

春日井市玉野町から岐阜県多治見市に続く旧国鉄中央線廃線跡「愛岐トンネル群」で、今秋も春日井市側の一・七キロ区間が一般公開され、昨秋を上回る人出でにぎわっている。今年は台風15号の被害を受けたが、新たな遺構が見つかるなど思わぬ副産物も。市民らによる保存再生活動が全国的な賞も受賞し、地元で観光資源としての期待も高まっている。

れんが造りのトンネルが連なる廃線跡で散策を楽しむ来場者たち＝いずれも春日井市の愛岐トンネル群で

春日井側 一般公開きょうまで

初の団体ツアーなど人気

市内へ活気呼ぶ態勢を

近郊ナウ

「わぁー」。赤れんが造りのすすけたトンネルを抜けて視界が開けた。推定樹齢百年のモミジの巨木が姿を現し、女性客のグループから歓声が上がった。陽光を浴びた葉が赤や黄、緑色に透けていた。

両親と初めて訪れた多治見市脇之島小六年の赤尾翼君（二）は、弁当を食べる手をとめて「トンネル内は暗くてこわかったけど、脱線事故でできたひび割れも生々しく残っていてすごい」と話した。

NPO法人・愛岐トンネル群保存再生委員会の村上真善事務局長（五九）らによると、二十三～二十六日に一万八百七十二人が訪れた。二十七日までに過去最多の一万五千人を見込んでいる。

今回は三年前からの公開で初めて、団体のツアー客が訪れた。関西方面からで想定の二倍の応募があり、日程を増やす人気ぶり。別の旅行社も、関心を示しているという。

台風15号で崩落した護岸から見つかったのは、一九〇〇年の開業当時からトンネルの坑門を支えてきたとみられる石垣。一方で、一部が通行止め

台風15号の被害で思わぬ発見となった石垣

村上事務局長は「国重要文化財のトンネルがある群馬・碓氷峠、紅葉の名所の足助町・香嵐渓などが知られるが、ここにはその両方がある」と説明する。

市民からは「市内で食事などの受け入れ態勢があれば」といった声も。昨秋に続き訪れた春日井商工会議所の松尾隆徳会頭は「何とか春日井の財産として世に出したい。みんなで盛り上げていけたら」と話した。

記者の目

散策路の木々に名札が付いており、生きた図鑑さながら。足元を見れば、踏みつけられないよう石で囲われた実生モミジが必死に生きている。ベンチに腰掛けて庄内川の渓谷を眺めたり、トンネルにこだまするオカリナの音色に癒やされたり。被写体を探すのに困らない。あっという間に三時間が過ぎた。これだけの資源をどう発展させるか。行政から経済団体まで、力を合わせた取り組みを期待したい。

（谷知佳）

村上事務局長は「国重要文化財のトンネルがある群馬・碓氷峠、紅葉の名所の足助町・香嵐渓などが知られるが、ここにはその両方がある」と説明する。

市民からは「市内で食事などの受け入れ態勢があれば」といった声も。昨秋に続き訪れた春日井商工会議所の松尾隆徳会頭は「何とか春日井の財産として世に出したい。みんなで盛り上げていけたら」と話した。

台風15号で崩落した護岸から見つかったのは、一九〇〇年の開業当時からトンネルの坑門を支えてきたとみられる石垣。一方で、一部が通行止めになるなど、爪痕も残っている。

来場者に販売する記念品も検討しており、今年はプレ企画として多治見市の市民グループと一緒に旧国鉄のマークが入った陶製の茶器「汽車土瓶」を復刻させた。

訪れるのは四度目という写真愛好家の名古屋市守山区、自営業田畑貞義さん（六三）は「いつも自然の表情が違い、毎回、テーマを変えて撮影を楽しんでいる。ほかの見物客との何げない会話もいいですね」と尽きない魅力を語った。

公開は二十七日まで。開場は午前九時半から午後三時（入場は午後二時まで）。見学料は一人百円。懐中電灯と運動靴持参。問村上事務局長＝電090（4860）4664